

あべともこニュース

号外
立憲民主
RIKKEN MINSHU

国の全力を挙げて「生命」の支援を!!

◆総理はじめ政府四演説は空疎

30日に行われた岸田総理、外務、財務、経済財政政策担当、各大臣の演説は文字面だけで国民を思う気持ちが全く伝わってきません。

総理は、能登半島の被災地に対して、そもそも20年以上前に予測されたM8.1の地震になぜ備えなかったのか、珠洲にまで原発建設を計画していたのはなぜか、避難計画もおおざりなり…このことを深く反省し、まず詫びるべきです。今回の災害を見れば明らかに住民の安全無視です。

また外務大臣はガザ地区に対して日本がどんな支援をするのかについて、全くスルー。国際ルールを守る外交を並べただけです。政府は、国際司法裁判所が裁いたジェノサイドを防ぐために何をしようか？

今国民が最も不安に思っていることに、しっかりと応えてこそ施政方針演説です。政府の危機感のなさは著しい。国民の生命、財産は守られない。平和的生存権も守られない。弛緩した政権は交代を!



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区(藤沢市・寒川町) 当選8回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともこ子どもクリニック(湘南台)理事長 現在、厚生労働委員会 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
公式X (旧Twitter)
@abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ事務所
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomo>

あべともこ

検索

あべともこ後援会入会及び、ボラティアスタッフ募集中!



駐日パレスチナ代表部訪問(1月30日) 川田龍平,原口一博,近藤昭一各議員らと

◆母子救う「こうのとりのゆりかご」

1月22日、親が育てられない乳幼児を匿名でも預かる「こうのとりのゆりかご」(慈恵病院/熊本市内)を視察。アーチの門から小道を通り「ゆりかご」へ。「まず相談を」と呼びかける掲示とインターフォンが目を引きます。窓口の引き戸を開けて建物内の専用保育器に赤ちゃんが預けられると看護師さんが駆けつける仕組みです。「お母さんへの手紙」も置かれ、赤ちゃんを預ける前も後も母子に寄り添い命を救いたいという気持ちが伝わってきました。



病院で保護された赤ちゃんは、児童相談所を経て乳児院や児童養護施設、里親らの元で育てられます。2007年から全国で初めて運用を始め、22年度までに預けられた乳幼児は170人。母子のセーフティーネットと捉え、国も支援をすべきだと思えます。

◆ガザ地区での人道支援の継続を

国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の職員が、昨年十月七日のハマスのイスラエル攻撃に関与したとして、米国など十カ国以上がUNRWAへの資金停止を発表。日本も追従して支援停止を表明しました。UNRWAは1948年からパレスチナ難民の教育、医療、生活支援を行ない、JICAを通じた母子手帳の普及なども含め、これまでの日本の協力を思えば、今回の資金援助の停止が及ぼす影響は極めて深刻です。

1月26日、国際司法裁判所は、この間のイスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への攻撃に対してジェノサイドを防ぐために全力を挙げることを命令。「人道支援活動の停止はパレスチナの人々を絶望的な状況に追い込む」「資金援助の停止は集団懲罰だ」との指摘もあり、あらゆるルートを通じて人道支援の強化を図ることが不可欠です。UNRWAの活動を停止させてはなりません。